

## 年少者向け初期日本語学習用動画教材の開発

## Development of Video Materials for Children Learning Elementary Japanese as a Second Language

岡崎 渉\* 清遠 和弘\*\* 小野 吉方\*\*\*  
OKAZAKI Wataru KIYOTO Kazuhiro ONO Yoshimasa

日本語指導を必要とする児童生徒は、全国の小中学校等において増加の一途をたどっている。日本の学校では、日本語で教育が行われているため、日本語以外の言語環境で生まれ育った子どもたちが「教育を受ける権利」を享受するには、日本語を習得することが不可欠の要件となる。だが、多くの地域・学校で日本語の指導体制は整っておらず、子どもたちの言語的背景を問わない公平な教育が保障されているとは言い難い。その理由には、専門的な指導ができる人材の不足もさることながら、日本語学習用教材の乏しさも挙げられる。特に、デジタル教材についてはほとんど開発されていない。そこで、筆者らは神戸市教育委員会との共同研究によって、シナリオ動画と語彙学習動画、各24本からなる年少者向け初期日本語学習用動画教材を開発した。本稿では、その開発に至るまでの経緯と背景、および動画教材の設計について解説し、最後に今後の課題を提示する。

キーワード：年少者日本語教育、外国人児童生徒等教育、日本語初期指導、日本語指導が必要な児童生徒、デジタル教材

Key words : teaching Japanese for children, education for children with foreign backgrounds, teaching elementary Japanese, children who need Japanese language instruction, digital materials

## 1. 開発の経緯

## 1.1 日本語指導が必要とされる児童生徒

日本の人口減少および少子高齢化の加速に呼応するかのようになり、日本に住む外国人の数は増え続けている。在留外国人数は、令和3(2021)年6月末の時点で282万3,565人と、10年前である平成23(2011)年の204万7,349人から、1.4倍近くにまで増加している(出入国在留管理庁, 2021)。

これにともない、外国人の子どもの数も増え続けている。在留外国人の内、19歳未満の者は、2021年の時点で293,492人と、在留外国人全体の10%近くを占めている(文部科学省, 2021a)。その内、小学校、中学校、特別支援学校、高等学校等に在籍する児童生徒は10万人を超えている(文部科学省, 2021b)。児童生徒の言語的・文化的背景が多様化するにしたがって、日本語指導を必要とする児童生徒の数も増加している。この児童生徒たちは、完全な日本語環境で生まれ育ったわけではないがゆえに、教育を受ける権利を享受するためには、日本語を習得することが不可欠の要件となる。

文部科学省(2022)の全国調査によると、日本語指導が必要とされる児童生徒の数は令和3(2021)年度の調査で58,353人であり、34,207人であった10年前の平成22(2010)年から、およそ1.7倍に増えている。この中には外国籍の児童生徒だけでなく、日本国籍の児童生徒も多数含まれる点に注意されたい。これは帰国子女や、

家庭で主に用いられる言語が日本語でない子ども等、日本国籍であっても、その生育環境から年齢相応の日本語が身につけていない場合もあることによる。

学校での日本語指導に関して、小・中学校等の学習指導要領では、「総則」に、海外から帰国した子どもに対する学校生活への適応や、日本語の習得に困難のある子どもの日本語への配慮や指導を行うことが求められている(文部科学省, 2017a, b, 2018a, b)。日本語教育の推進や理解を図る法律として、日本で初めて制定された「日本語教育の推進に関する法律(日本語教育推進法)」(文化庁, 2019)では、子どもが生活や教科学習を行うために必要な日本語教育の充実を国・自治体の責務で行うこととされており、法律上も必要な日本語教育を受けられることが保障されている。

しかしながら、指導現場の体制整備は追いついていない。文部科学省(2022)によると、日本語指導が必要とされている児童生徒であっても、1割程度は特別な指導を受けられておらず、指導を受けられている児童生徒であっても、専門人員の不足や指導体制の不備により、3割弱の児童生徒は「特別の教育課程」による指導を受けていない。さらに、週5単位時間以上の指導を受けられている児童生徒は2割程度でしかない。一定水準の日本語が身につかなければ、教科の授業に出席しても、当然のことながら何が行われているのか理解できず、子どもには大きな心理的負担になり得る。そのため、特に

\* 兵庫教育大学教員養成・研修高度化センター協力研究員

令和4年7月15日受理

\*\* 兵庫教育大学教員養成・研修高度化センター協力研究員/東京書籍

\*\*\* 兵庫教育大学大学院(修士課程)人間発達教育専攻生活・健康・情報系教育コース

初期段階の指導は短期集中で行う必要があるが、そこまでは実現できていない学校の多いことが推測される。

以上のように、小・中学校等における日本語指導の体制は、近年徐々に改善がなされてはいるものの、指導体制の整備が追いついておらず、多くの児童生徒が十分な日本語指導を受けられていないのが現状である。

## 1.2 日本語学習用教材としての動画

日本語指導の体制が整備されていないのは、現場に専門性をもった人材が不足していることも一因だが、教材に乏しいこともその理由として挙げられる。日本語指導は、教科教育のように自治体で選定された教科書があるわけではなく、教科書を使うかどうか、どのように使うかといったことは、完全に指導者の任意である。しかしながら、そもそも年少者向けの日本語学習用教材は乏しく、特にデジタル教材は、成人向けのものに比べ極めて少ない。英語であれば、数多くの年少者向け英語教材が製作されており、無料で利用できる YouTube の動画教材も豊富である。動画チャンネルの中には、登録者数が100万人以上、総再生回数が1億回を超えるものもいくつか見られるほどである。一方で、年少者向け日本語学習用の動画教材は、YouTube に個人が製作したと見られる、初歩的な語彙学習のできる動画が散見される程度である。

言語学習における動画教材は、(1) 実写やアニメーションなどにより現実場面を再現しやすいため、言葉の意味が感覚的に理解しやすく目を引きやすい、(2) 視覚・聴覚両面からのインプットが可能である、(3) デバイスとインターネットさえあれば、どこにいても繰り返し手軽に視聴できる、といったことが利点として挙げられよう。特に(3)は、動画教材が対面指導のみならず、オンライン指導にも利用しやすい教材であることを意味する。2020年初頭に始まる新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、日本語指導が必要な児童生徒にも、対面指導の機会が損なわれることで、日本語学習と教科学習の遅滞を招いている。そこで、学習機会確保のため、Zoom 等によるオンラインでの日本語指導・支援も行われており(渡部他, 2020)、デジタル教材の必要性はより高まっていると思われる。さらに、指導者が確保できなくても、なるべく子ども一人でも学習が進められる教材も必要であろう。

以上のことから筆者らは、神戸市教育委員会との共同研究の機会を利用し、2021年度の事業として年少者向け日本語学習用動画教材を開発することとなった。

## 2. 「サバイバル日本語」とは

動画教材を開発するにあたっては、まず、日本語学習におけるどの段階の日本語を取り上げるのか、決める必要がある。日本語指導を行う上で採用できる日本語プログラムには主に、「サバイバル日本語」「日本語基礎」「技能別日本語」「日本語と教科の統合学習」「教科の補習」がある(文部科学省, 2019)。この内、サバイバル日本語と日本語基礎は、子どもに日本語がまったく使えない

段階から行われる初期段階の指導プログラムである。

本動画教材では、「サバイバル日本語」を中心とする初期段階の日本語を採用することとした。それは、日本語教育を専門的に学んだわけではない多くの指導者にとって、もっとも指導上の負担が大きいのが初期段階だからというのが大きな理由である。また、日本語基礎と違い、サバイバル日本語は、読み書きは特に含まれないため、より動画という媒体が適した日本語プログラムであると考えた。サバイバル日本語とは、以下の通りである。

来日直後の児童生徒は、言語はもちろん文化・習慣の違いから生活のあらゆる場面で、困難に直面します。日本の学校生活や社会生活について必要な知識、そこで日本語を使って行動する力を付けることが目的のプログラムです。挨拶の言葉や具体的な場面で使う日本語表現を学習することが主な活動になります。(文部科学省, 2019: 27)

サバイバル日本語は、日本語がまったく、あるいはほとんどわからない状態で学校にやってきた児童生徒が、さしあたって A) 健康で衛生的な生活を送るために、B) 安全な生活を送るために、C) 周囲の仲間との関係をつくるために、D) 学校の生活を円滑に送るために、日本語でコミュニケーションをとり、行動できるようになることを目指すものとされる。例えば A の場合、学ぶべき日本語としては、授業中にトイレに行くことを申し出るための「先生、トイレいいですか」や、体調不良を訴えるための「～が痛い」といった表現が挙げられる。

サバイバル日本語は日本語初期指導に含まれるが、これは児童生徒が周囲とコミュニケーションをとり、早く教科の学習に参加できるようになるために、できるだけ短期間で身につける必要がある。子どもは、特に9歳頃までであれば、1～2年学校で過ごすだけで、日常会話ならある程度自然に習得することが可能である(cf. カミズ・中島, 2011)。かといって指導をしなければ身につくまでに時間がかかりすぎる上に、普段の生活で接することのない日本語は身につかない。例えば、西川・青木(2018)では、「ごはんをたく」「掃除機をかける」といった、主に家庭生活で使われる日本語は、家庭では日本語を使わない子どもであれば、基礎的な日本語であっても身につけにくいことが示唆されている。こういったことから、初期指導段階の日本語だからこそ、子どもが自然に身につけるに任せるのではなく、短期間で着実に必要な日本語を身につけ、その後、教科学習に参加していくための土台を築く必要がある。これをサポートするための動画教材として、シナリオ動画と語彙学習動画という2セットを製作することとした。以下、順に述べる。

## 3. シナリオ動画の製作

### 3.1 内容

子どもに日本語を教えるにあたっては、発達段階を考

慮して、言葉を直接説明して教えることは、なるべく控えられる。子どもは物事を客観視する力や、論理的、抽象的に考える力が発達途上にあるため、言葉の意味を説明して理解させようとしても、理解には至りにくい (cf. ベンサム, 2006)。母語に翻訳して教える方法も、子どもには不向きとされる (中島, 2016)。一方で、子どもは言語の「自然習得」に長けている。言語を自然習得できるのは、言葉の意味を、その言葉が使われた場面や相手の動作、表情、声の調子といった、その場から読み取れるあらゆる情報にもとづき推測しているためである。このような子どもの言語習得上の特性を活かすには、指導において、説明して教えるよりも、子どもにとって身近な想像しやすい場面を通して、言葉の意味を推測して理解できる機会を提供することが有効であろう。

そこで動画教材の内容は、小学校を舞台にした、シナリオにもとづくアニメーションとすることにした。主人公は、海外から日本の学校にやってきた「さぼたん」と「ひろりん」という2人の児童であり、学校生活の中でクラスメートや教師と交流する日常を描いたものであ

る。シナリオは、上述したサバイバル日本語における4つの観点にもとづき、24本製作した。それぞれのシナリオには主な学習項目を設定し、1分程度の尺とした。表1は、24本それぞれのタイトルと主な学習項目である。

シナリオ動画は、子どもが言葉の意味を推測しやすく、かつできるだけ目を引くものとするために、会話の目的・文脈が明確な短いシナリオと、アニメーションによる表現、キャラクターの台詞が指すもののイラストでの表示、プロの声優による音声の使用といった工夫を行うこととした (図1)。ここで言う言葉の意味とは、辞書で説明されるような概念的な意味だけでなく、「どんなときに」「誰が」「誰に」「何のために」「どのように」言っているかといった文脈情報も含まれる。言語を習得するには、こういった語用的意味の理解も不可欠である。

各動画回に設定した学習項目は、日常会話で繰り返し使われる表現であるため、そのまま覚えると便利というもののだが、学習目標とは異なる。学習目標はあくまで、それぞれの場面におけるコミュニケーション上の目的を達成するために、必要な行動がとれるようになること

表1 シナリオ動画一覧

No.	タイトル	学習項目
1	はじめまして!	はじめまして/よろしくおねがいします
2	きもちわるい・・・	～がいたい/きもちわるい
3	きゅうしょく	いただきます/これはなに?/おいしい・おいしくない
4	あそぼう!	あそぼう/いいよ/ごめん/だいじょうぶ?
5	がっこうたんけん～おんがくしつ・としょしつ～	ここはなに?
6	がっこうたんけん～うんどうじょう～	これはなに?/すごい/できる・できない
7	わたしの いちにち	おきます/たべます/(がっこうに) いきます/べんきょうします/かえります/(おふろに) はいります/ねます
8	にほんごがわからない	わかりません/もういっかいおねがいします/～ほん (ぼん・ぼん)
9	かして	かして/ありがとう
10	いいですか?	～でもいい (ですか) ?
11	じかんわり	つぎはなに?/どこで?
12	なんさい?	だれ?/なんさい?
13	おとしもの	だれの?/わたしの
14	とうげこう	みぎ/ひだり/まって/みて/すすんで
15	じゅぎょう	わすれました/だして/みて/ひらいて/たって/よんで/きいて
16	そうじ	はいて/ふいて/そうじして
17	なにがすき?～くだもの・どうぶつ～	すき/すきじゃない
18	しょくいんしつに いく	しつれいします/～はいますか?/います・いません
19	ごめんなさい	ごめんなさい/だめ
20	あめ	ある・ない
21	なにがすき?～のりもの～	～ってなに?/どうして?/～から (理由)
22	なんにん?	なんにんですか?/ひとり・ふたり・さんにん・よにん・ごにん
23	りょうり	とって
24	やくそく	なんようび?/なんじ?/どこで?

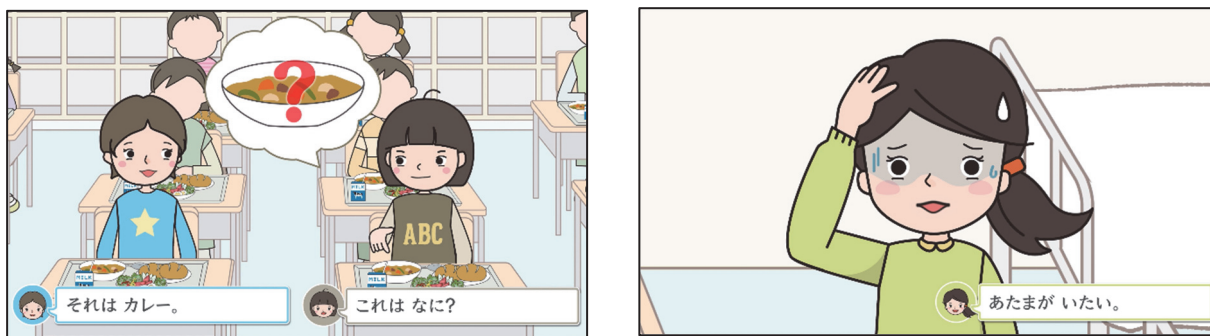


図1 シナリオ動画の一場面

である。例えばNo.2「きもちわるい…」であれば、「体調が悪いときにそれを教師に訴えることができる」といったことが学習目標となる。「～がいたい」「きもちわるい」が言えるようになることは重要ではあるが、これらが言えるようになることは、学習目標を達成するための一手段であるため、目的化されないよう留意する必要がある。

かといって、シナリオ動画としての学習目標を設定しているわけではない。それは、サバイバル日本語における学習目標は、動画を視聴するだけで達成できるようなものではないためである。サバイバル日本語の目的は、日本の学校生活や社会生活の中で、日本語を使って行動する力を身につけることである。これは動画を視聴するだけで身につけられるとは想定していないため、動画としての学習目標を設定することはしなかった。さらに、学習動画は、それ単体で学習を行うためのものではなく、指導者による指導計画の中に組み込まれるべきものだからでもある。初期指導は特に、子どもの身体感覚を通して学べる対面での指導が基本であるため、動画はそれをサポートする教材という位置づけである。

また、シナリオ動画の24本は難易度順に配列されているわけではない。また、積み上げ型になっているわけでもないため、順に学ばなければならないというわけではない。児童生徒の現状に応じて、必要と思われるものから取り上げていくこともできるし、既に能力を身につけているため取り上げる必要がないという動画もある。

### 3.2 構成

サバイバル日本語の学習目標は、動画だけでは達成されないとはいえ、動画単体でもできるだけ言語習得に結びつきやすくなるような工夫を施す必要がある。そのために、ここで第二言語習得における認知処理過程を確認しておきたい。第二言語習得において、視覚・聴覚により「インプット」された言語情報は、「気づき (noticing)」→「理解 (comprehend)」→「内在化 (intake)」→「統合 (integration)」という過程を経て、「アウトプット」できるようになり習得に至る (cf. 小柳, 2004)。音声や文字によるインプットがなされた際、特定の言語形式に対する「気づき」が起らなければ、その言語形式の習得も起り得ないとされる。言葉を見たり聞いたりする

ことでインプットがなされたとしても、そこに何らかの気づきが起らなければ、長期記憶に転送されることもないためである。

したがって、動画教材を製作する上でも、単に意味理解が可能なインプットを与えるだけでなく、なるべく子どもの気づきを引き起こせるような工夫を施す必要がある。そこでシナリオ動画は、表2の通り、台詞の字幕(テロップ)と音声の有無を変えつつ、同じシナリオを4回流すことで、言語形式の異なる側面に対する気づきが起こりやすいようにした。

まず、タイトルコールである「さぼたんとひろりんのみんなでにほんご」が音声つきで流れ、次に各動画回のタイトルが表示される。それからシナリオの1回目が始まる。1回目は字幕がなく、音声のみが流れるため、「聞いて意味を推測する」ことに、2回目は音声と字幕がともにあるため「音声を文字と結びつける」ことに、3回目は字幕のみであるため「文字を読む」ことに、4回目は字幕がなく、学習項目だけを音声なしとすることで「学習項目を言う」ことに、それぞれ気づきが起こりやすくなるようにした。最後に、「もういちどいってみよう」で、学習項目だけが一覧表示されることで、特に重要な表現に改めて注意が向けられる。以上のようにすることで、言葉の意味と音声、文字をつながげながら、言葉の異なる側面への気づきが生じるよう意図した。字幕はすべて仮名の分かち書きにより表記している。

ただし、シナリオ動画の中でも、No.2「きもちわるい…」, 7「わたしのいちにち」, 14「とうげこう」, 15「じゅぎょう」は、3回目と4回目を設けておらず、その代わりに「れんしゅうしよう」を設けた(図2)。

No.2「きもちわるい…」では、学習項目である「～がいたい」を、No.7「わたしのいちにち」では、「起きます」「食べます」のように「～ます」の形を、当ては

表2 シナリオ動画の音声・字幕の有無

	音声	字幕
1回目(みてみよう①)	○	×
2回目(みてみよう②)	○	○
3回目(いってみよう①)	×	○
4回目(いってみよう②)	○(学習項目のみ×)	×

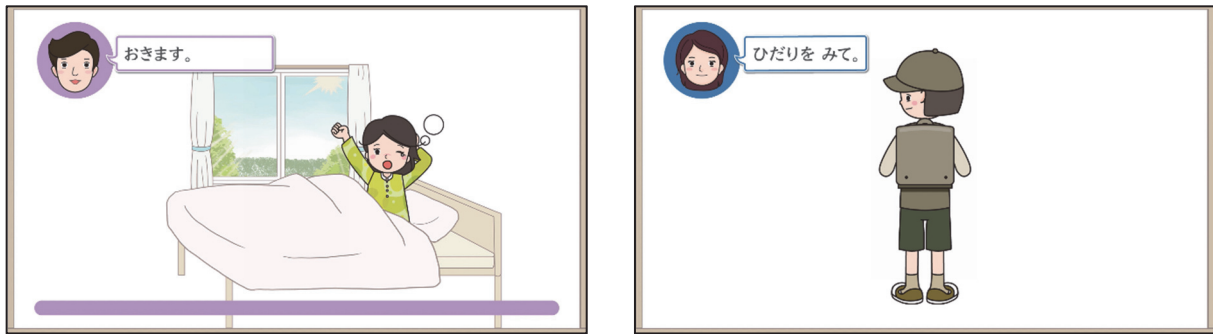


図2 「れんしゅうしよう」

める言葉を変え、繰り返し言う練習が行えるようにした。これらの動画回については、特定の学習項目が言えるようになることを重視すべきであると考えたためである。No. 14「とうげこう」とNo. 15「じゅぎょう」では、「左を見て」「立って」「座って」といった教師の指示に対して、子どもが実際に体を動かして練習できるようにした。教師が普段指示を出すときによく使う言葉は、さしあたって子どもが使えるようになる必要はなく、即座に身体動作として反応できさえすればよい。ただし、「れんしゅうしよう」だけで十分に練習できるほどの分量はないため、指導者が対面でも同様の練習を繰り返し行う必要がある。

また、シナリオ動画で使われている語彙は、なるべく語彙学習動画にも含めるようにした。これにより、シナリオ動画を視聴する前後に語彙学習動画で語彙を学ぶことにより、学習を強化することが可能となっている。

## 4. 語彙学習動画の製作

### 4.1 内容

語彙学習動画では、サバイバル日本語として、児童生徒の日常生活において使用頻度と重要度が高いであろう基礎的な名詞語彙を、ジャンル別に取り上げた。表3に、各動画回のタイトルと登場語彙、および当該語彙が登場するシナリオ動画の番号を示す。

語彙学習動画1本あたりの取り上げる語彙数は、多くなりすぎると学習効果や学習意欲にマイナスの影響を与えるおそれがあるため、10~15が適切であろうと判断した。製作本数は、シナリオ動画と同じく24本であったため、語彙学習動画全体で取り上げた語彙数はおよそ250語となった。母語話者の子どもは、小学校入学時点で既に5,000語の理解語彙を有するとされ、教科学習を通して小学校ではおよそ1万語、中学校ではさらに1万語を学ぶ (cf. バトラー, 2011; 中島, 2016)。そのため、この250語は、子どもが学ぶべき日本語語彙全体から見れば、ごく一部に過ぎない。さらに、今回取り上げた品詞は、予算の都合上、名詞のみであったため、当然のことながら動詞や形容詞など、他の品詞の語彙も学んでいく必要がある。

とはいえ、語彙学習はその後も長く継続する必要があることを考えると、できるだけ学習意欲をもたせやすい

ものとする必要がある。そこで、初期指導段階の名詞は具体物の名前が多くを占めることもあり、すべての語彙は、それが指すものをイラストにより表すこととした (図3)。用いるイラストに外注するほどのコストはかけられなかったが、インターネット上の著作権フリー、すなわち利用規約の範囲内で自由に使用できるイラストのみで対応できると判断した。イラストは、それが何を指しているのか十分わかるようにするため、イラストによっては、図3のように矢印で対象を明確に指し示したり、人物など他のイラストを組み合わせて加工を行った。

### 4.2 構成

語彙学習動画は、「いえるかな」と「ぜんぶいえるかな」から構成される。まず、一つ一つの単語が日本語で何というのかを学ぶ必要があるため、「いえるかな」では、単語のイラストを提示した後、数秒置いてから、単語名が文字と読み上げ音声で示されるようにした。次の「ぜんぶいえるかな」では、「いえるかな」で取り上げた全単語のイラストが一度に示され、十数秒置いた後、語彙名が表示される (図4)。このようにすることで、すべての単語が言えるかどうかを試すことができ、また、回答が合っていたかどうかを、子どもが自分ですぐに確認することができる。

だが、語彙指導・学習において留意すべきことは、イラストを見てすぐに名前が言えるようになったというだけでは、その単語を習得したとは言えないという点である。物を見て名前が言えるからといって、その単語を聞いたときも何のことか即座にわかるとは限らないし、正しく言えて正しく聞き取れたとしても、読んでわかるかどうか、正しいつづりで書けるかどうかも別問題である。語彙学習動画だけでできることは、物を見て名前を言う練習のみであるため、音声・文字の双方によるインプットおよびアウトプットができるかどうかを考慮した指導を行う必要がある。

そのためには例えば、全てのイラストが表示される「ぜんぶいえるかな」で一時停止し、指導者がランダムに単語を言い、どのイラストのことかを子どもに当てさせることで、聞いて理解できるかどうかを試すことができる。他には、「ぜんぶいえるかな」で、指導者がラン

表3 語彙学習動画一覧

No.	タイトル	登場語彙 (動画内では仮名で表記)	語彙が登場する シナリオ動画のNo.
1	かお	目, まつ毛, 眉毛, 耳, 鼻, 口, 唇, 舌, 歯, 髪, 顔	
2	からだ	頭, 体, 首, 胸, お腹, 肩, 腕, ひじ, 手, 指, ひざ, 足, 背中, お尻	2「きもちわるい…」
3	たべもの・のみもの	りんご, みかん, バナナ, 果物, キャベツ, トマト, にんじん, 野菜, 肉, 魚, パン, ごはん, 牛乳, 水	17「なにが すき？」
4	うんどう	サッカー, 野球, バスケットボール, マラソン, リレー, ダンス, 水泳, 縄跳び, 跳び箱, 鉄棒, 一輪車	4「あそぼう」, 6「がっこうたんけん〜うんどうじょう〜」, 24「あそぼう」
5	がっこう	学校, 教室, 職員室, 保健室, 理科室, 音楽室, 図書室, 廊下, トイレ, 手洗い場, 体育館, 運動場, プール	5「がっこうたんけん〜おんがくしつ・としよしつ〜」, 18「しよくいんしつにいく」
6	どうぶつ	犬, 猫, ネズミ, うさぎ, きつね, たぬき, 猿, 猪, 熊, 牛, 豚, 鳥, 動物	17「なにが すき？」
7	しぜん	空, 雲, 海, 太陽, 月, 星, 雨, 雷, 風, 山, 木, 森, 川	20「あめ」
8	いろ	白, 黒, 赤, 青, 水色, 緑, 紫, ピンク, オレンジ, 黄色, 茶色, 灰色	9「かして」, 14「とうげこう」
9	かぞく	お母さん, お父さん, 赤ちゃん, おばあさん, おじいさん, お姉さん, 妹, お兄さん, 弟, 家族	12「かぞく」, 20「あめ」, 22「かぞく」
10	きょうしつ のなか	机, 椅子, 黒板, 時計, 電気, テレビ, 窓, ドア, 水道, 掃除, 雑巾, ほうき, ちりとり	16「そうじ」
11	もちもの	ランドセル, かばん, 傘, 水筒, 筆箱, 鉛筆, 色鉛筆, 消しゴム, 教科書, ノート, プリント, パソコン, タブレット	8「にほんごがわからない」, 13「おとしもの」, 20「かき」
12	ふく	制服, 水着, 体操服, 給食着, 帽子, 眼鏡, シャツ, ズボン, スカート, パンツ, 靴下, 靴	11「じかんわり」
13	こうつう	電車, 新幹線, バス, 自転車, 車, トラック, 交差点, 信号, 道路, 横断歩道, 踏切, 歩道橋	21「なにが すき?〜のりもの〜」
14	たてもの	家, ビル, スーパー, コンビニ, レストラン, 公園, 病院, 交番, 駅, アパート, 団地	24「あそぼう」
15	いえのなか	玄関, キッチン, ベランダ, ベッド, 布団, 枕, お風呂, シャワー, 床, 掃除機, テーブル, ソファ, ハンガー	22「なんにん？」
16	キッチン	食器, お皿, 茶碗, コップ, 箸, スプーン, フォーク, コンロ, フライパン, 鍋, 炊飯器, 冷蔵庫, レンジ	23「りょうり」
17	かず	0-10, 11-20, 百, 千, 1万, 10万, 100万, 1000万, 1億	
18	かぞえかた〜 にん・ひき〜	(1-10) 人, (1-10) 匹	22「なんにん？」
19	かぞえかた〜 こ・ほん〜	(1-10) 個, (1-10) 本	8「にほんごがわからない」
20	かぞえかた〜 さつ・まい〜	(1-10) 冊, (1-10) 枚	
21	つき	(1-12) 月, 春, 夏, 秋, 冬	
22	ひ	1-10日, 14日, 19日, 20日, 24, 29日	
23	ようび	(日〜土) 曜日, 一週間	24「あそぼう」
24	じかん	(1-12) 時, ~時 (10, 20, 40, 50) 分, ~時半, 朝, 昼, 夕方, 夜	7「わたしのいちにち」, 24「あそぼう」

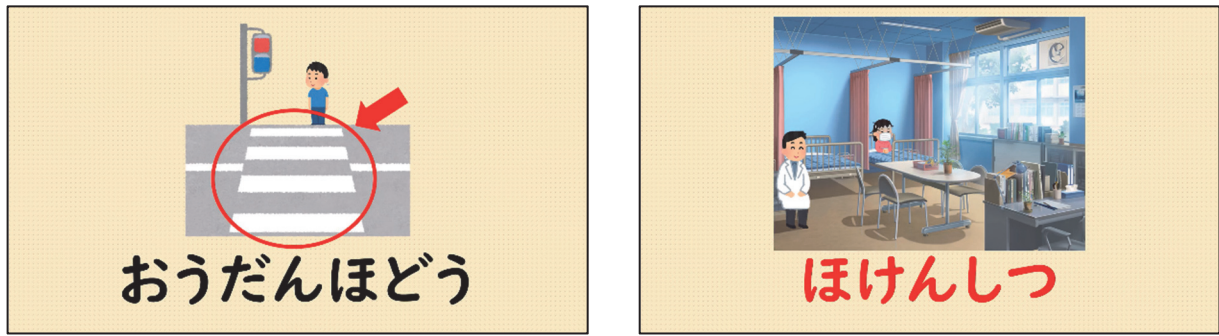


図3 語彙学習動画の一場面

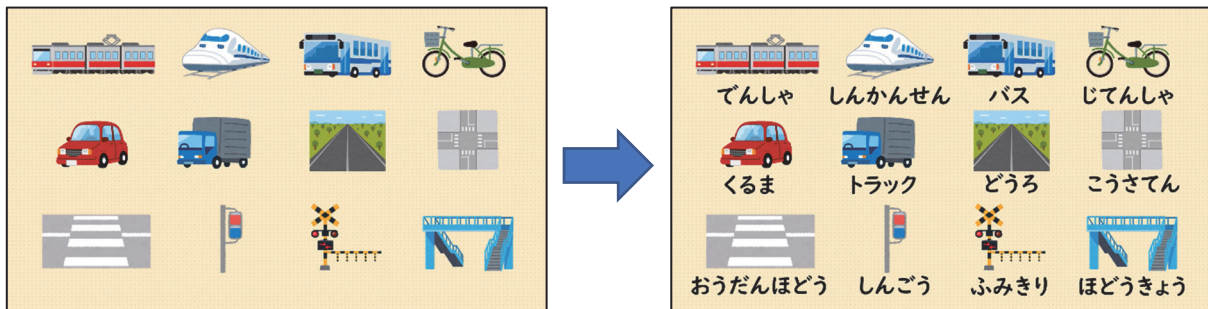


図4 語彙学習動画の「ぜんぶいえるかな」

ダムにイラストを指し、それを書き取らせることもできる。正しく発音できていたとしても、特に撥音や促音、長音、拗音といった特殊拍の場合、正しく書いていなかったり、抜けていたりする場合がありますので注意が必要である。

語彙は一度の学習で覚えられるものではないため、繰り返しインプットが行われる必要がある。表3に示した通り、シナリオ動画の中にも、語彙学習動画で取り上げた単語はなるべく含めるようにしたため、同じ単語が登場するシナリオ動画と語彙学習動画を続けて学習することで、学習効果を高めることが期待できる。

### 5. 今後の課題

本稿では、年少者向け初期日本語学習用動画教材として開発された、シナリオ動画と語彙学習動画を解説した。本教材は動画という特性上、対面での指導だけでなく、Zoom等でのオンライン指導でも容易に用いることができる。さらに、子どもの自宅学習にも用いることができる。中学生以上ならともかく、小学校低学年の子どもでは、紙媒体での学習教材を用い、一人で日本語学習を進めるのは無理がある。その点において、動画であれば扱いやすく、学習意欲ももたせやすいと思われる。夏休みなどの長期休暇中に子どもの日本語力が衰えることは、よく聞かれる話だが、指導の時間でなくとも、家庭学習用に利用することもできる。

しかしながら、本稿で論じたような学習効果を、本動画教材が子どもに本当に与えることができるのかどうか、実際に指導現場で活用してもらいながら、検証を行う必要がある。これにより、年少者日本語教育における同種の動画教材、ひいてはデジタル教材全般への示唆が

得られ、より良質の教材開発へとつなげていくことができる。

### 参考文献

カミンズ、ジム（著）・中島和子（訳著）（2011）『言語マイノリティを支える教育』慶應義塾大学出版会  
 小柳かおる（2004）『日本語教師のための新しい言語習得概論』スリーエーネットワーク  
 出入国在留管理庁（2021）「令和3年6月末現在における在留外国人数について」<[https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13\\_00017.html](https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13_00017.html)>（2022年7月1日閲覧）  
 中島和子（2016）『完全改訂版 バイリンガル教育の方法—12歳までに親と教師ができること—』アルク  
 西川朋美・青木由香（2018）『日本で生まれ育つ外国人の子どもの日本語力の盲点—簡単な和語動詞での隠れたつまずき—』ひつじ書房  
 バトラー後藤裕子（2011）『学習言語とは何か—教科学習に必要な言語能力—』三省堂  
 文化庁（2019）「日本語教育の推進に関する法律について」<[https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka\\_gyosei/shokan\\_horei/other/suishin\\_houritsu/index.html](https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/shokan_horei/other/suishin_houritsu/index.html)>（2022年7月14日閲覧）  
 ベンサム、スーザン（2006）『授業を支える心理学』秋田喜代美・中島由恵（訳）、新曜社  
 文部科学省（2017a）「小学校学習指導要領（平成29年告示）」<[https://www.mext.go.jp/content/1413522\\_001.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1413522_001.pdf)>（2022年7月14日閲覧）  
 ——（2017b）「中学校学習指導要領（平成29年告示）」<[https://www.mext.go.jp/content/1413522\\_002.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf)>（2022年7月14日閲覧）

- (2018a) 「特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 (平成 29 年 4 月告示)」 <[https://www.mext.go.jp/content/20200407-mxt\\_tokubetu01-100002983\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200407-mxt_tokubetu01-100002983_1.pdf)> (2022 年 7 月 14 日閲覧)
- (2018b) 「高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示)」 <[https://www.mext.go.jp/content/1384661\\_6\\_1\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1384661_6_1_3.pdf)> (2022 年 7 月 14 日閲覧)
- (2019) 『外国人児童生徒受入れの手引き (2019 年改訂版)』 <[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm)> (2022 年 7 月 4 日閲覧)
- (2021a) 「学校基本調査『国籍・地域別 年齢・男女別 在留外国人』」 (令和 3 年度) <<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00250012&tstat=000001018034&cycle=1&year=20210&month=12040606&tclass1=000001060399>> (2022 年 7 月 1 日閲覧)
- (2021b) 「学校基本調査」 (令和 3 年度) <<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400001&tstat=000001011528&tclass1=000001161251&tclass2=000001161406>> (2022 年 7 月 4 日閲覧)
- (2022) 「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査結果の概要 (速報)」 <[https://www.mext.go.jp/content/20220324-mxt\\_kyokoku-000021406\\_02.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20220324-mxt_kyokoku-000021406_02.pdf)> (2022 年 7 月 14 日閲覧)
- 渡部倫子・櫻井千穂・岩坂泰子・永田良太 (2020) 「文化的言語的に多様な子どもたちのための Web 学習支援—支援者の成長—」 母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 学会 2020 年度研究大会

## 出典

- 兵庫教育大学・神戸市教育委員会 (2022) 「年少者向け 初期日本語学習用動画」 (兵庫教育大学ホームページ) <[https://www.hyogo-u.ac.jp/facility/create/nihongo\\_gakusyu.php](https://www.hyogo-u.ac.jp/facility/create/nihongo_gakusyu.php)> (2022 年 7 月 14 日閲覧)